



河北町立西里小学校学校便り

発行：校長 須藤里佳

令和5年7月14日

nishizato



修学旅行で 仲間と 学ぶ

6月29日（木）～30日（金）に6学年の修学旅行がありました。現在はウイズコロナになり観光地の制限も緩和されていますが、まだコロナ感染が心配されていた昨年度から計画していたということもあり、班別研修ではなく全員で見学するという形で行いました。様々な学びがあった中から、いくつかご紹介します。

1. 他の人を気づかうということ

宿泊は鶯宿温泉でした。修学旅行の大きな楽しみの一つはホテル宿泊です。バスの中でも元気いっぱいの子もたちでしたが、ホテルに入ってテンションはさらに上がります。部屋に入って歓声、食事で歓声、お風呂で歓声！ ホテルの廊下でも歓声。

「きっと楽しくて、夜遅くまで眠らないかな。朝も早くからにぎやかになるかな。」

と心配になりました。睡眠不足から体調不良になる子も出るのではないかと、他の宿泊客への迷惑になるのではないかと不安になりました。そこで、入浴後の班会の時に、担任が子どもたちに語りました。「他の人を気づかうこと」についてです。

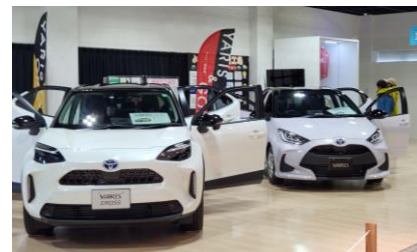
「楽しいのはわかるけれど、自分中心になってはいけない。同じ部屋の友達、旅を楽しんでいる他の宿泊客の気持ちを考えよう。みんなが楽しいのが本当の楽しさだ。」

と語る担任の言葉を、子どもたちはきちんと聞いていました。「きまりを守る」という自分たちのめあてももう一度振り返りました。

そして、消灯時刻 10 時。一斉に、静かです。眠れない子もいたようですが、静かです。起床 6 時半まで静かです。部屋から出てくる子はいませんでした。

「早く目が覚めたけれど、ふとんの中にいた。」

というのです。「他の人を気づかうこと」を考えられる子どもたちを素晴らしいと思いました。修学旅行の夜の子ども姿が 1 番心に残るものとなりました。



2. 自分たちで進める

子どもたちの成長の姿として嬉しかったのは、出発式、到着式など自分たちで進めたことです。いっさい担任の指示を仰ぐことをせずに堂々とする姿は、大きな成長を感じました。



3. 本物に触れる

1 日目は、宮城県にあるトヨタ大衡工場を見学しました。個人旅行では見学できない場所です。驚くほどの生産ラインの様々な工夫、工業用ロボットのすごさを見ることができました。声をあげて驚いて見ている子どもたちの顔が印象的でした。日本を支える産業の技を見ることは、大きな学びでした。その後、大河ドラマの撮影でもよく利用される「えさし藤原の郷」で平安文化を感じ、宮沢賢治記念館で賢治の世界を味わいました。

2 日目は小岩井農場です。ディズニーランド 60 個分の広大な農地を、バスごと消毒を行い、1 時間バスで移動しながら見学しました。（ここも個人旅行では見学できないところです。）飼料づくり、牛・鶏・羊の飼育、糞尿を使つての発電とたい肥作りという、循環型農場の仕組みに感動しました。牛の運動量や体調を数値で出す近代的な首輪にも感動です。その後、中尊寺の金色堂を見ました。あまりの光り方に「これ本物？」と聞く子もいました。毛越寺での座禅体験も貴重な体験でした。東北を代表する歴史文化に触れました。

たった 2 日間ですが大きな学びでした。子どもたちの成長の伸びしろを十分に感じた修学旅行でした。



「堀米ゆず子ふれあい探訪」

— バイオリン・オーボエ・チェロ・ビオラの演奏 —

7 月 11 日（火）、堀米ゆず子さんと 3 人の演奏者を迎え、西里小学校体育館でミニコンサートが行われました。昨年より町内の学校 2 校ずつ演奏会をしてくださっています。町長さんをはじめ 30 人ほどの地域の方もいらっしゃいました。

世界的な音楽家の演奏を目の前で聞くという経験はなかなかないものです。クラシック音楽は、子どもたちには難しいかもしれませんが、食い入るように見て、真剣に聞いている子どもたちの顔は大変よかったです。

「きれいな音だった！」
という素直な感想の言葉が聞かれました。子どもたちの一生の思い出になることでしょう。

